



理数研企画

「R7高尾山 植生観察研修」

10月1日(水)都民の日に高尾山で植生観察に行ってきました。本校生徒12名、そして講師として、さなりんどう植生調査室の八木正徳先生をお招きして、「樹木を観察する視点」や「高尾山のバイオームの話」、「三宅島の植生との違い」について講義をして頂きながら登山をしてきました。

研修のねらい

- ・樹木の名前を10個は覚えよう。(仲良くなるには名前を知ることから)
- ・東京(高尾山)のバイオームを観察する。
- ・来月に行く、三宅島の植生と比較するために、内地の植生を知る。

9:00 高尾山口集合



1号路の途中の崖に、へばりつくように自生するヤブツバキ



「ヤブツバキ」*Camellia japonica*

ツバキ科ツバキ属

<ヤブツバキとお茶の文化>

ヤブツバキの学名は *Camellia japonica* と呼ぶように、日本に自生するツバキです。そして、ツバキの葉にはクチクラが多く含まれているため光沢を放っています。このような光沢を放つ葉を持つ木本を照葉樹と言います。他にも照葉樹の代表種をあげるとすると、緑茶の葉として知られるチャノキがあります。チャノキの学名は *Camellia sinensis* と言います。チャノキとヤブツバキは同じツバキの仲間なのです。そのため、暖温帯に位置する東アジアでは照葉樹が多く自生しており、この地域ではお茶を中心とした文化が存在します。これを照葉樹林文化と呼ぶのだそうです。

この夏の猛暑の影響で…



←この枯れた木はブナ(樫)といいます。高尾山のバイオームは照葉樹林なので、比較的温暖な地域に生息する樹木で占めていますが、この木は東北地方のような寒い場所に生息する木本です。山頂に近い場所で数本だけ自生していたのですが、今夏の異常な暑さによってほとんど枯れかかっていました。



←こちら依然として猛威を振るう「ナラ枯れ」によって枯れたコナラ。ナラ枯れは、カシノナガキクイムシが媒介する樹木の感染症。林冠に穴が空きギャップが生じている様子も観察できる。

雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ



雨の中の実習でしたが、最後まで集中力を切らさずに熱心に八木先生の話を聞いている生徒たちの姿が印象的でした。



今回の研修では、「今夏の異常な暑さ」が自然環境に及ぼした影響を多く観察することができました。ブナの立ち枯れに加え、高温の影響でカシやコナラのドングリの実りが例年より悪く、さらにナラ枯れによる倒木も目立っていました。こうした現状を踏まえると、人と野生動物がどのように共存していくべきかを改めて考えるきっかけになったのではないでしょうか。

文責：尾方（生物科）